

ASR1000 パント ポリシング機能ロギングおよびモニタリング

目次

[概要](#)

[インターフェイス パント ポリシング機能ごと](#)

[設定し、確認して下さい](#)

[デフォルト パント ポリシング機能のための記録](#)

[結論](#)

概要

この資料は Cisco 集約 サービス ルータ (ASR) のためのそのパント ポリシング機能 機能およびいくつかの新しい変更を 1000 および統合サービス ルータ (ISR) G3 デバイス説明したものです。パント ポリシング機能はデフォルトで有効になり、すべてのコントロール プレーンによってパントされるトラフィックのポリシングを行ないません。読みたいと思えば関連するパント ポリシング機能およびパントについての詳細は [ASR パケット破棄トラブルシューティングに関する文書](#)を参照できます廃棄します。最近行ったパント ポリシング機能ロギングに少数の変更があり、よくある CLI ユーザにデバイスのパケット破棄の原因を特定するために clear logging メカニズムを与えるようにオペレーションは、変更意図されています。

インターフェイス パント ポリシング機能ごと

これはコード 16.4 Polaris リリースで導入されました。

これはネットワーク admin がインターフェイス基礎ごとのパント ポリシング機能制限を設定するようにします。それはパント トラフィックの膨大な数のソースをたどるそれ故にトラブルシューティング にかかる 時間の下に下がり、パケットキャプチャに交替を与えずインターフェイスを識別したいと思うとき特に有用であり。この機能の前にパント トラフィック必要があったら、そしてあなたのソースインターフェイスを知るおよびリソース長時間消費したパケットキャプチャを行わなければなりませんでした。

設定し、確認して下さい

```
Router(config)#platform punt-intf rate < packet per second>
```

```
Router ( config ) #interface gigabitEthernet 0/0/0
```

```
second> ごとのルータ ( config-if ) #punt コントロール イネーブル <packet
```

この設定はインターフェイスごとに監察するパント ポリシングを有効にします。たとえば、1000 で、また particular インターフェイスでパント コントロール 比率をグローバルに設定すれば、デバイスは 30 秒時間のこの特定のインターフェイスのためのパント ドロップするを把握します。タイムインターバルの 30 秒後に、ルータはパント violation イベントがずっとあること admin を警告 するためにこのようなログを示します。

*Jun 21 23:01:01.476: %IOSXE-5-PLATFORM: F1: cpp_cp: QFP:0.1 Thread:076

TS:00000044123616602847 %PUNT_INJECT-5-DROP_PUNT_INTF: GigabitEthernet0/0/0 からのパント インターフェイス ポリシング機能 ドロップする パケット

30 秒があると同時に大きい間隔は、インターフェイスについては最新のパント ドロップするを表示できるコマンドもたらされました。

```
Router#show platform hardware qfp active infrastucture punt statistics type punt-intf-drop latest
```

Punt Intf Drop Statistics (lastest 1000 dropped packets):

Interface	Packets
GigabitEthernet0/0/0	1000

このリアルタイム ドロップを監視するドロップする統計をクリアできます。

```
Router#show platform hardware qfp active infrastucture punt statistics type punt-intf-drop latest clear
```

Punt Intf Drop Statistics (lastest 1000 dropped packets):

Interface	Packets
-----------	---------

Router#

デフォルト パント ポリシング機能のための記録

インターフェイスによって、パント ポリシング機能必要は明示的に設定されます。ただし、グローバルに ASR デバイスで、原因パント ポリシング機能ごとにアクティブ常にです。

最近 16.6.1 イメージで、記録は原因パント ポリシング機能ごとにのために設定されました。今後は、ログは原因パント違反に対して a が発生するある時はいつでも生成されます。

最初ログ ルータの時から開始するは 30 秒のためのパント原因を監察します。30 秒後にもう一つのドロップする アクティビティがそしてあれば生成されたもう一つのログがあります。

ログメッセージはこのようになり、従ってパント原因 60 についてはドロップするを参照します。

```
F1: cpp_cp: QFP:0.1 Thread:035 TS:00000000089593031387 %PUNT_INJECT-5-DROP_PUNT_CAUSE: パント casue ポリシング機能 ドロップする パケット casue 60
```

下記のコマンドでパント原因関連詳細をチェックできます。

```
BGL14.Q.20-ASR1006-1#show platform hardware qfp active infrastucture punt config cause 60
```

QFP Punt Table Configuration

```
Punt table base addr : 0x48F46010
punt cause index      60
punt cause name       IP subnet or broadcast packet
maximum instances     1
punt table address    : 0x48F46100
instance[0] ptr       : 0x48F46910
  QFP interface handle : 3
  Interface name        : internal1/0/rp:1
  instance address      : 0x48F46910
  fast failover address : 0x48F2B884
  Low priority policer  : 70
  High priority policer : 71
```

このログから離れて、パント ドロップを監視する古いコマンドを常に使用できます。

```
Router#show プラットフォーム ハードウェア qfp アクティブな infrastucture パント統計型パント  
ドロップする
```

```
Router#show プラットフォーム ハードウェア qfp アクティブな infrastucture パント統計型毎原因
```

```
Router#show プラットフォーム ハードウェア qfp アクティブな infrastucture パント統計型グロー  
バルドロップする
```

結論

原因パント毎の記録およびインターフェースごとのパント モニタリングの概要を使って、パント
関連 問題を特定するよりよいツールがあります。qfp ステータスのパント ドロップするを参照す
る時はいつでも、更に問題を特定するのに説明されたツールを使用する必要があります。